根津美術館プレスリリース
2024 年 3 月 15 日

根津美術館所蔵の 2 作品が国の重要文化財に

このたび、根津美術館が所蔵する以下の 2 作品が国の重要文化財に指定される運びとなりました。これは、2024 年 3 月 15 日（金）付けで文化審議会から文部科学大臣に答申されたことを受け、決定されたものです。

＜百草蒔絵薬箪笥＞

飯塚桃葉（初代）作
1 具　木胎漆塗　日本・江戸時代　明和 8 年（1771）

（蓋裏部分）

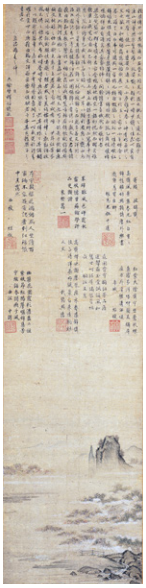
徳島藩主・蜂須賀家に伝来した、内容品も豊富に遺る薬箪笥で、銘により藩お抱え蒔絵師である初代・飯塚桃葉（？～ 1790）が明和 8 年に制作したことがわかる。器表や抽斗前面はパッチワークのように区切った中を名物裂など様々なモチーフで埋め、蓋裏には百種類の薬草や昆虫が名前を付して描かれる。それらは極めて高度な技術を要する精緻な研出蒔絵で表されている。本作からは当時の大名のネットワークも垣間見られ、蒔絵史、薬学史、近世史など様々なジャンルにおいて重要な作例である。飯塚桃葉の作品では初の指定。

＊2024 年 11 月 2 日（土）～ 12 月 8 日（日）
　特別展「百草蒔絵薬箪笥と飯塚桃葉」で展示予定です。

＜披錦斎図＞

宗甫紹鏡ほか六僧賛
1 幅　紙本墨画淡彩　日本・室町時代　寛正 5 年（1464）

花咲く木々が、紅白の錦のように美しい春の景色を描いた詩画軸。長文の題記により、鎌倉・円覚寺の梁宗という少年僧を慕う人物が、夢に見た書斎を画に描かせ、題の筆者・宗甫紹鏡がその書斎を披錦斎と名付け、さらに仲間の禅僧から詩を集め、少年僧に贈るために寛正 5 年に制作されたものとわかる。鎌倉で描かれた詩画軸の中で、制作年代が明らかな最古の作例として貴重である。二代根津嘉一郎が還暦祝いで建てた当館庭園内の茶室「披錦斎」は、この作品にちなんで命名された。



（部分）

＊次回展示予定は、2025 年度以降の見込みです。

館長 根津公一　コメント：
このたびの 2 件の重要文化財指定を大変光栄に存じます。「百草蒔絵薬箪笥」は、精緻な蒔絵技法に魅了されるとともに、美術史以外の分野においても重要な意味を持つ作品です。そして「披錦斎図」は、関東で描かれた現存最古の詩画軸として大変貴重であると同時に、当館にとりましては、庭園内の茶室の名前の由来にもなった思い入れのある大切な作品です。これらを含め、引き続き、保存・研究・公開の活動を通じて、文化財を未来の世代に引き継ぐ使命を果たしてまいります。

＜根津美術館について＞
根津美術館は、実業家･初代根津嘉一郎（1860-1940）の蒐集品を基礎として、私邸のあった南青山の地に 1941 年に開館しました。現在のコレクション約 7,600 件は、「燕子花図屏風」（尾形光琳筆　日本・江戸時代　18 世紀）など国宝 7 件、重要文化財 91 件（今回新たに指定される 2 件を含む）、重要美術品 95 件をはじめとする、絵画、書蹟、彫刻、陶磁、漆工、金工、染織、考古など多岐にわたる日本と東アジアの古美術品によって構成されています。2 万㎡を超える広大な敷地には茶室が点在し、四季折々の風景が楽しめます。

公式ホームページ：https://www.nezu-muse.or.jp
〒107-0062　東京都港区南青山 6-5-1

本件（作品画像を含む）お問い合わせ先：根津美術館　学芸部　広報課　所・村岡
e-mail　press@nezu-muse.or.jp　　Tel.(広報直通）03-3400-2538

・上記情報は、発表日現在のものです。内容は予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。